

はじめに

根室農業は、10万haの飼料畑で18万頭の乳牛を保有し80万tの生乳生産を担う酪農主産地として発展してきました。

酪農家一戸当り生産量も、年間約645tに達し生産規模は年々拡大している現状にあります。

一方で、酪農経営は生乳生産費の上昇により経済余剰が漸減し、所得幅が狭くても規模の利益で所得を確保するために乳牛飼養頭数を増やすことで生産を拡大し経営の安定維持を図る経営志向が強まっております。

飼養頭数の増加は、飼養管理頭数の増加に直結しており、個体管理と牛群管理の優劣が乳牛の能力発揮と損耗の発生に大きく作用してしまう状況にあります。

H25営農年度では、最大の生産資源である経産牛頭数が減少し、繁殖面でも受胎の遅れ等により分娩頭数も昨年より減ったために生乳生産が大きく落ち込みました。

生産回復には乳牛頭数の補充確保が必要であり、その更新補充には農場内で分娩した哺育育成牛をしっかりと育て授精し初妊牛をつくる必要があります。

根室管内では毎月約7,500頭の子牛が生まれていますが、そのうち400頭、約5.3%が死産となっています。

出生当日中の死産が67%に及び、以後哺育中の疾病事故も続き育成牛の確保に支障を来すことも懸念されます。

子牛の傷病事故の殆どが消化器病・呼吸器病となっていることから子牛をこの疾病から守るために、子牛の飼養管理の方法の改善や適切な分娩時管理をするための技術資料として酪農家の皆様に活用して頂きたいと思っております。

平成26年3月

根室生産農業協同組合連合会

代表理事組合長 高橋 勝 義

根室農業改良普及センター

所長 三浦 康 雄